

花々しいものは終ひにはるくな事は無いものだ、講習所も此時代は前の如き始末で設備は不完全で生徒も少なく生徒は皆模寫黨ばかりの哀れな連中只「スケッチ箱」所有者のY君が獨り嶄然頭角を抜いて居た位のものである。其頃は大下先生だつてどんなにか心細かつたことに相違ない。さりながら此僅少な講習生は今の堂々たる水彩畫研究所の原始的記念物として、多大の價値を有するものであると思ふ。故に僕は研究所の變遷を説くに當つて、それ等石器時代の人々を一應天下の同志に紹介して置きたい。誰か世界の美術史を語るに當つて、先づ埃及のオペクスクや三角塔を述べぬものがあらう況んやそれ等の講習生は、數こそ少なけれ、技術こそ拙けれ中にはその閑歴の上に少なからざる面白い話柄を有する人が多かつたに於ておやだ。僕は次號に於て大にそれ等の趣味ある閑歴をすつば抜くことにしやうと云つて決して人身攻撃なぞ、卑劣なことをする僕ぢやない事を斷つておく。



西行の筆捨山など名所がある。景色の佳いのに閉口して迎でも手が出せないといふので筆を捨てたことであらう。餘り諦めが早過るやうだ。第一其筆が勿體ない。諸國を遍歴して少し佳い景色の處へ來ると筆を捨てゝゐては筆の數も多く入ることであらう。

昨年九月頃に亡くなつた英國の畫家ホルマントといふ人は葬

式の節、棺を飾るに此人が生前使つてゐた畫筆を山のやうに積んださうだ。好い思ひ付きである。日本では天神様へ行くと筆が澤山上つてゐるが見て誠に氣持がよい。尤も臺灣のやうに蟲が食ふ處では飾つて置く譯にもゆくまい。

筆の極く使ひよいのは、新しいものではなく稍や古くなつて少し先の切れて來た時だ。これは自然に先が切れて來たから良いので態と切つても妙でない。それゆへ書家の方は知らないが、畫家は古い筆を大切がらる中々捨てるどころではない。

筆が古くなると其色の特質が出て來る。之が其主人の特質に似るのだから面白い。それ故自分の筆を人に貸すのも厭であるが人の筆を借りて使ふのも眞平だ。自分が知らぬ間に一度でも人が使つた筆は直ぐ手加減で知れるのが妙である。

之は心理上さうであらう。畫家が筆を手にすれば其毛の先き迄血が通はなければウソだ。手は手筆は筆と別々でゐては佳いものが出來やう筈がない。

斯うなつて來ると、能書は筆を選ばずなど云ふことは出鱈目だ。成るべく良いのを選ぶ方が書きよいだけでも得である。

第一之が道に忠なる所以であらう。自分と一心同體である筆が好加減の間に合はせものと來ては辛棒が出來ない。何本でも捨てる西行に劣けることではない。(寫生趣味)

■畿内見物、春泥集、邦助畫集其他の新刊紹介は紙面の都合上次號へいづる